

断熱性高めたプラスチック製

新型魚箱開発へ

国の支援事業認定 道外企業と連携

羅臼の「北海道ニーズ」

【羅臼】町内知昭町の漁業
用資材卸・レンタル会社「北
海道ニーズ」(津山雅樹社長)
が、イカを入れる箱として現
在主流の木箱に代わるプラス
チック製の新型魚箱の開発に
取り組んでいる。道外企業と
連携し魚箱の断熱性を高め、
全道での普及を目指してい
る。
(伊藤美穂)



新型プラスチック魚箱の開発に取り組み北海
道ニーズの津山すくる常務

木箱は水分を吸収す
るため熱を持ちにくい
長所がある半面、衛生
面や調達コストの変動
が大きいなどの課題を
抱えている。また、木
箱の耐久年数は約2年
だが、プラスチック魚
箱は半永久的に使用可
能でリサイクルもでき
る。同社は2001年
から羅臼漁協にプラス
チック魚箱をレンタル
方式で提供、衛生、調
達コストの両面で実績
を上げてきた。

羅臼のイカ漁は秋以
降のため断熱性は求め
られていなかったが、
夏場や昼の操業となる
道南や日高地区ではプ
ラスチック魚箱の断熱
性を高める必要がある。
そこで断熱塗料の
製造技術を持つエクセ
ラ(東京)とプラスチ
ック箱の製造を担う岐
阜プラスチック工業
(岐阜)と連携し、新
型魚箱の製造に取り組
むことにした。

計画は経済産業省と
農林水産省が異業種の
中小企業が連携して取

り組む新事業を支援す
る「新連携計画」に1

日付で認定された。試
作品開発に対する補助
金や金融機関による低
利融資など5年間の支
援を受けられる。

開発に取り組む津山
すくる常務(31)は「断
熱対策を来春をめどに
完成させ、木箱販売業
者と提携しながら空欄
や網走など道内の漁協
に普及させていきたい
」と話している。